

プレスリリース — drupa2008

2008年5月8日

株式会社 Horizon 東テクノ

展示会: drupa2008

場所: ドイツ、デュッセルドルフ

開催期間: 2008年5月29日～6月11日

Horizonブース: Hall No. 13, Booth No. B35

Horizon・インターナショナルは五月八日、drupa2008の出展内容を発表した。東京都江戸川区松江のHorizon東テクノ本社での発表会には堀英二郎Horizon東テクノ／西コンサル代表取締役会長兼Horizon・インターナショナル代表取締役社長、佐野作兵衛Horizon東テクノ代表取締役社長、伊藤幸太郎Horizon西コンサル代表取締役社長、衣川竜二Horizonインターナショナル販売促進部マネージャーが出席した。

1. 堀英二郎会長からのメッセージ

今回の drupa2008 は Digital drupa とも呼ばれていますが、Horizon では「think **intelligent automation**」をテーマに、より自動化を実現した出展機の実演・ライブデモンストレーションを予定しています。また、短いセット替え時間の実現が環境への配慮にもつながるとして、先進的なポストプレス機器を実感していただきます。世界の需要増大に応える為に 05 年から行ってきた総額 45 億円の生産体制強化のための設備投資も完了し、迅速な供給体制が整ったことになるので今年の drupa ではより積極的に営業活動をおこないます。drupa2008 の会場では、納得いくまでポストプレス工程の効率化をご確認いただき、トレンドに即した設備投資を世界 90 ヶ国以上のユーザー様にご検討していただきます。弊社では 4 年前ドイツに販売子会社 Horizon GmbH を設立し、社員 60 名の下でドイツ・オーストリア・ハンガリーでの直販体制を確立しましたので欧州でも Horizon は後処理機のトップメーカーとして認められるようになりました。特にドイツでは老舗後処理機メーカーがひしめく中で、弊社の開発コンセプトである **intelligent automation** が市場で高く評価され、マイスターで無いオペレーターでも精度の高い製本仕上がりが出来る機能が市場で広く認められています。昨今日本国内の印刷製本産業界では“業態変革”が叫ばれ不況からの脱出が図られようとしています。ドイツの印刷製本産業界でも同じ状況が数年前まで続いていましたが最近では売上増に転換しだしています。ドイツの印刷製本産業界がデジタルとオフセットの融合により市場変化に機敏に反応し、新技術の設備導入により具体的な成果を出しています。drupa2008 は日本のお客様にとってドイツでの成功事例を勉強していただける絶好の機会です。弊社ブースでは国内に先立って発表する新商品を日本のお客様にもゆっくりご紹介出来るように国内営業マンを待機させておりますので皆様のご来場を心からお待ちしております。

2. ドイツで認められているホリゾンの先進自動化技術

HT-30は2006年9月にドイツで開催された「ドイツ印刷産業イノベーション賞 (Innovationspreis der Deutschen Druckindustrie)」で「技術部門」の3等賞を受賞。



AFC-566FKTは2007年9月にドイツで開催された「ドイツ印刷産業イノベーション賞 (Innovationspreis der Deutschen Druckindustrie)」で「技術部門」の2等賞を受賞。



ご参考として

AFC-566FKT は 2007 年度にリそな中小企業振興財団と日刊工業新聞社共催の「第19回中小企業優秀技術新製品賞」を受賞。中小企業の技術を評価する国内最大の権威ある賞で、ユーザーからのヒアリングも含め、優秀性、独創性、市場性の3つの視点から選考されました。



第19回中小企業優秀技術・新製品賞 受賞

BQ-470 は 2007 年度に日刊工業新聞社主催、日本商工会議所協賛の第37回機械工業デザイン賞で、日本商工会議所会頭賞を受賞。産業会で最も権威のあるデザイン賞である機械工業デザイン賞に応募された数多くの機種の中から受賞しました。



日刊工業新聞
第37回 機械工業デザイン賞
日本商工会議所会頭賞受賞

3. drupa2008 ホリゾンブースについて

drupa2008 のホリゾンブースは約 1,200 平米で過去最大規模、昨年の IGAS2007 のブースとほぼ同じ大きさとなる。ホリゾンブースは製本機器をメインに展示するホール 13 に位置し、その中では最大のブースとなる。

ホリゾンブースでは 5 つのゾーンでブースを構成し、30 種類の後処理機器に加え、JDF ワークフローで先進の後処理機システムを展示する。ブースは①中綴じ製本機ゾーン ②無線綴製本機ゾーン ③紙折り機ゾーン ④オンデマンドゾーン ⑤デモンストレーションゾーンで構成されている。

ホリゾンブースでメインの展示となるデモンストレーションゾーンでは、昨年の IGAS2007 同様、より使いやすい自動化を実現した紙折機 AFC-566FKT、小ロット生産のデファクトスタンダードなった中綴じ製本システム StitchLiner5500、PUR 製本を可能にした無線綴じ製本機 BQ-470、フラッグシップモデルの無線綴じ製本ライン CABS5000、そして i2i システムによる JDF ワークフローを使った機器の自動セットアップ、後加工の進捗管理や稼働状況の把握に加え、効率的な生産が環境への配慮にも繋がることをアピールする。

また、他社とのコラボレーション展示、特にデジタルプリンターメーカーとの展示では、A 高いセキュリティがもとめられる仕事や One to One の仕事に最適なインライン製本機の展示、B 機器それぞれの処理速度を要求し、進捗管理や、製本物個々のログ管理や整合性確認が必要な仕事に向いているニアライン(オフライン)製本機の展示を行い、デジタルプリンターの後処理市場においても、ホリゾンの製本機の利用価値が高いことを実感してもらう。

今回の drupa2008 で新たに発表する弊社の主な後処理機は次の通り。

〔中綴じ製本システム StitchLiner6000〕

多くのユーザーが高い評価を寄せるペラ丁合鞍掛け中綴じ製本システム StitchLiner5500 の上位機で、一時間当たり 6000 冊の生産性、先進の自動化技術を搭載しすばやいセット換えを実現した。従来のモデルは、丁合機と接続するとコの字型のレイアウトになったが、StitchLiner6000 ではスペースが効率よく使える L 型を採用した。また、この StitchLiner6000 用に菊四裁の長辺を先頭に丁合できる丁合機 VAC-80S を開発。多種多様な用紙の安定した給紙を実現し、ユーザー様が仕事の幅を広げるための手助けをとなるシステムとして提案する。

さらには、最近印材市場でも導入が進んでいる連続紙デジタルプリンターと StitchLiner6000 のインライン接続も視野に入れている。

【2 点式四六判半裁折り機 AF-566T4F】

市場での評価が高い四六判半裁(788mm×545mm)の折り機のラインアップとしてバックル+バックルの2点式紙折り機 AF-566T4F を drupa2008 で発表する。AF-566T4F は一つ目の折ユニットに6枚のバックルを、二つ目の折ユニットに4枚のバックルを有し、幅広い折パターンに対応できる。また、独自の自動セットアップ技術を用い折りローラのギャップ調整を含めほとんど全ての調整を自動化した。カラーLCD タッチパネルを使って、折り機のスキルを持たない人でも簡単に高精度の折が実現できることを特徴としている。折り速度は、時間あたり最高で42,000枚を実現。この AF-566T4F は今後デジタルプリンターとインライン接続することも予定している。

【1 クランプ無線綴製本機 BQ-270C】

発売から5年が経過した今でもベストセラーの一つに挙げられる1クランプ無線綴製本機 BQ-270 のモデルチェンジが行われ、drupa2008 で BQ-270C としてリリースされる。ユーザー様の間から特に要望の大きかった操作パネルの大型化・カラー化を実現し、さらに操作性を向上させた。

BQ-270C はオフセット印刷、デジタル印刷を問わず多品種少量の無線綴製本に活躍するホットメルトを使った無線綴製本機で、セットアップの自動化により製本の未経験者でも高精度の無線綴製本作業を行うことができる。

drupa2008 では、バーコードを使った製本物の中身と表紙の整合性をチェックするバーコード・バリフィケーション・システム(オプション)の実演展示も行う予定。

また、本身を挟むだけで厚みに対する調整を瞬時に行うことのできる厚み入力ユニット SI-270C(別売)を本身投入部の近くに配置し、オペレーターの作業性を大きく向上させた。

【上製本システム HCB-2】

最近ますます需要の高まりを見せるオンデマンドのフォトアルバムやメモリーブックの市場において小ロット用の上製本機に対する強い要望がある。ホリゾンの上製本システム HCB-2 はそのようなオンデマンド上製本市場をターゲットとして開発した。複雑な上製本の各工程を対話式の操作パネルでシンプルにまとめ、時間180冊の生産性を実現している。表紙にはバリエーション豊富な粘着式の用紙が使用でき、消耗品のコストを抑えることで多くのユーザー様がオンデマンド上製本の市場に参入することを促す。

オプションで、表紙と中身の整合性を管理できるバーコード・バリフィケーション・システムを提供し、これを使って多品種少量生産での作業間違いを最小限に抑えることができる仕組みも新しい。

今回発表するこれらの新商品も製本のワークフローi2iシステムとの接続が可能で、JDF連携へと発展させることが出来る。

デジタルプリンター・メーリングシステムメーカーとのコラボレーション展示は次の内容で予定している。

〔Xerox 社ブース〕ブース No.: Hall 8b Booth A78

- ・DocuColor8000AP に中綴じ製本機 ColorWorks 8000 をインライン接続して展示。
- ・DocuColor5000AP に中綴じ製本機 ColorWorks 5000 をインライン接続して展示。

〔HP 社ブース〕ブース No.: Hall 8a Booth B26

i2i システムを使って無線綴製本機 BQ-270、三方断裁機 HT-30、平断裁機 APC-61II を HP 社の印刷ワークフローと連携させた展示。

〔Pitney Bowes 社ブース〕ブース No.: Hall 4c Booth C23

Pitney Bowes 社のアンワインダー + カッター(ロール to ロールで印刷したものをカットして供給する装置)と連結したペラ丁合鞍掛け中綴じ製本システム StitchLiner5500 を出展。

〔Punch Graphics 社(Xeikon)ブース〕ブース No.: Hall 8a Booth D25

無線綴機 BQ-270、三方断裁機 HT-30 を出展し、オフライン後処理加工のデモンストレーションを行う。